

令和4年度 特別支援教育授業づくり研修会 授業公開

令和4年11月24日赤磐市立山陽北小学校「自立活動」

特別支援学級では、「自立活動」という学習を行っています。個々の課題にあった学習を展開し、よりよい成長を促すための活動です。「自立活動」の公開授業が山陽北小学校で行われました。

「にがてダネをやっつけて、とくいダネをそだてよう」という目標で学習が進められました。

今回は「さいごまで聞く」「ふわふわことば（をつかう）」「（よい）しせい」の3つの「苦手」が扱われました。

ゲームを交えた楽しい活動の中で、子ども達は目標に立ち返りながら終始意欲的に取り組み、とても和やかな雰囲気での学習が展開されました。

ひまわりB「ひまわりタイム」

石橋祐子 指導教諭



<授業での子ども達の様子>

授業は先生と児童とが、なぞなぞの対決をする設定で行われました。なぞなぞをしながら目標を達成するためには「問題を最後まで聞かないと間違ふよ。」「友達が正解したらナイス!!て声をかけたらいいよ。」「こたえを間違えた友達には大丈夫ていったらいいね。」などといった意見が次々と聞かれました。

先生となぞなぞを行う中で実際に「ナイス!」や「次頑張ろう」などといった友達を励ます言葉や最後まで問題を聞こうとする姿がとても多く見られました。

<研究協議会の様子>

協議で上がったキーワード

①「1年間を通した指導」

ひまわりB学級の「自立活動(ひまわりタイム)」は1年間通して「にがてダネをやっつけて、とくいダネをそだてよう」という目標で取り組まれています。子どもの実態に即した「苦手」を取り上げ、生活や行事とも関連付けながら根気強く指導を重ねることの大切さが話し合われました。

子ども自身が「苦手」を克服してきた経過を振り返ることができる仕組みも素晴らしかったです。

②「自他の苦手や得意を認め合える関係性」

「苦手も得意も誰にでもあるもの。だからこそ自他でそれを認め、みんなで成長していこう。」と考える授業者の思いと子ども達の「成長したい。」という思いが合わさった授業でした。個々の課題に教員も子どもも向き合って「自立」に向かっていくためには、教員と子ども、子ども同士の信頼関係が重要であることが確認されました。



ひまわりBの温かい授業と先生方の熱のこもった協議を通して、特別支援学級でも通常学級でも「子どもは全て異なる」この大前提で教員は子どもの成長を見つめ、「目の前の子ども達のために何が出来るのか」その視点で研修を積み、教員自身も成長を続けなければならないと感じました。